

2011年1月4日

三菱ケミカルホールディングス社長 小林 喜光 2011年 年頭挨拶 (要旨)

株式会社三菱ケミカルホールディングス

【“最初的一步”が肝心】

2008年度に始まった中期経営計画「APTSIS 10」は今年3月に期間を満了する。原油価格高騰、リーマンショックに端を発する世界景気の後退など、浮き沈みの激しい実に変な3年間であったが、結果的には目標数値を上回るばかりか、過去最高の業績を計上する見込みである。しかしながら、堅調なアジア市場に支えられている世界経済もその大きな構造的不安や原油価格の上昇等事業環境は決して楽観を許さない。今年4月からは5か年の新中期経営計画「APTSIS 15」が始まるが、決して現状に安心も油断もせず「最初的一步」からぜひ気合を入れて頑張っていたきたい。

【化学の未知なる可能性-ノーベル化学賞受賞と世界化学年-】

昨年は、鈴木先生、根岸先生がノーベル化学賞を受賞された。お二人の受賞により、化学が私たちの将来に秘める大きな可能性を強くアピールできたことは非常に嬉しい出来事だった。また、2011年はキュリー夫人のノーベル賞受賞100周年を記念した「世界化学年」。「世界化学年」の統一テーマは“Chemistry - our life, our future”だが、特に「our life, our future」という言葉には化学が「Sustainability」と「Health」を目指すことが表されており非常にいいテーマだと思う。我々も「APTSIS 15」において、この2つに「comfort」を加えた3つの指標からなるKAITEKIの価値を図る指標、すなわち「KAITEKI 指標」を「Management of Sustainability(MOS)」の具体的手法として定め運用を開始するが、そのスタートが世界化学年と重なるのは象徴的なことだと感じる。

【新たな“協奏”の実現を目指して】

当社グループは、個々の事業会社が頑張るだけでなく、その個が皆で「協奏」することも非常に大切である。「協奏」と「KAITEKI」が「APTSIS15」のキーワードであり、それぞれの事業同士のシナジー効果の創出のみならず、4つの事業会社が同時に頑張ることによって全体として一つの美しいハーモニーを創り出す「協奏」の実現を目指していただきたい。2011年は「KAITEKI」の実現を目指す三菱ケミカルホールディングスの新たな「協奏」が世界中へと広がっていく、そんな一年になるだろう。

以上

< 本件に関するお問合せ >

株式会社三菱ケミカルホールディングス
広報・IR 室
電話: 03-6414-3730